

令和4年度 第4回市政モニターアンケート 「広報ふじのみや」の集計結果からの考察

広報ふじのみやは、今後も、紙版で配布する必要がある

約9割の人が紙版で読んでおり、また、令和4年度に市が実施した富士宮市市民アンケート調査においても、回答者の約8割の人が「広報ふじのみや（紙版）」から、市の情報を入手しているとの回答であったため、市政モニターの皆さんの行動と概ね一致していることがわかる。

自由意見の中に、SNS等を活用し情報発信することで紙の削減にもつながるとの意見もあったが、市の情報を広く市民に伝えるため、紙版を利用し、現行の配布方法を継続する必要がある。ただし、今後、紙版での配布方法や配布部数なども含めて検討する必要がある。

「別冊創宮」の存在を知ってもらう必要がある

「別冊創宮」を、広報ふじのみやの一つのコーナーだと思っていた人が約2割、知らない人が約3割の合計約5割もいた。

「別冊創宮」は、市の政策、事業、成果などの他、富士宮市で活動している団体や事業者、商店街の取り組みの紹介など、多岐に渡った情報を掲載しているため、表紙、文字の大きさ等を工夫し、広報ふじのみやとの差別化を図りたい。

また、SNS等で周知していなかったため、今後、LINE、Facebook等のSNSを活用し周知したい。

今まで以上に、市民に親しまれる広報紙にするために 読むシーンや、年代等を考えた説明・写真を掲載することが大切である

全体的には、記事を「探しやすい」「どちらかと言えば探しやすい」という意見が約9割、内容が「分かりやすい」「どちらかと分かりやすい」という意見が約9割でしたが、自由意見の中には、「目次に内容の概要を書くことで読もうとする気になる」「もう少し振り仮名が欲しい」「実物がイメージできる写真が欲しい」等と言った意見もあった。

今まで以上に、市民に親しまれる広報紙を作っていくために、レイアウト等の工夫はもちろんですが、生活に役立つ情報や身近な情報をもっと取り上げていく必要がある。